

たてもの探訪⑫

本願寺八幡別院

今回は北元町に所在している本願寺八幡別院を紹介いたします。

本願寺八幡別院の創立年代については明らかになっていませんが、浄土真宗の本願寺11代顕如(1543年〜1592年)によって建立されたといわれています。本願寺八幡別院は当初蒲生野にて建てられ、その名称を金台寺としていました。顕如と織田信長が和睦した後は、安土城下である現在の安土町常楽寺付近に、寺地6か町の寄進を受け蒲生野から移転することとなりました。その後、羽柴秀次の八幡山城築城、城下町の形成に伴い北元、北末、西元、西末の4か町の寺領をあてられ、文禄元(1592)年、現在の場

所に移転することになります。

その後慶長5(1600)年には関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康が上洛の際に本願寺八幡別院に宿泊し、これが先例となり、3代将軍家光の上洛の際も宿泊したといわれています。また慶長12(1607)年以降、文化8(1811)年の間に合計12回(滋賀県内は10回)の朝鮮通信使来朝があり、その際の昼食所として本願寺八幡別院があげられていました。

現在境内にある本堂、表門、裏門、鐘楼は滋賀県指定有形文化財に指定されています。本堂、表門、鐘楼は昭和48(1973)年、裏門は昭和49(1974)年に指定されました。本堂の構造

は桁行九間、梁間九間、一重、入母屋造、本瓦葺と、市内でも随一の大きさを誇る一大建築です。また本堂の妻飾りは安土町の浄厳院の本堂の妻飾りと類似しており、名工高木家の作を思わせる造りになっています。表門の構造は四脚門、切妻造、本瓦葺です。裏門の構造は八脚門、入母屋造、本瓦葺です。鐘楼の構造は一間一重、入母屋造、本瓦葺です。また鐘楼の瓦は平成6(1994)年の工事に伴う調査で2社の瓦業者によって分担製作されたことが分かっており、両社とも手の込んだ瓦を製作していることから、八幡瓦を代表する工事が行われた建築であったことがうかがえます。

本堂は元禄7(1694)年頃から再建計画が始まり、明和6(1769)年に完成しています。長らく享保元(1716)年に完成したとされていましたが、平成13(2001)年の工事に伴う調査により、その完成年が改められました。実に75年という歳月をかけて、少しずつ建てられたことが明らかとなり

ました。表門は明和4(1767)年、裏門は天明2(1782)年、鐘楼は天保8(1837)年にそれぞれ完成しました。これらの建物は高木家によるもので、その後も度々補修、修理が行われました。そして平成5(1993)年に裏門、平成6(1994)年に表門と鐘楼、平成13(2001)年に本堂がそれぞれ滋賀県教育委員会によって保存修理され、現在の姿となっています。

これを機に本願寺八幡別院を訪れ、安土・桃山時代から続くその歴史的な建物に触れてみてはいかがでしょうか。



本願寺八幡別院

広報おうみはちまんは、各自治会を通じてお届けします。また、各学区コミュニティセンターや図書館などの公共施設、郵便局、金融機関、セブン-イレブン・ファミリーマート各店舗などに置いているほか、市ホームページやマチイロ、マイ広報紙などでもご覧いただけます。

人口と世帯

令和5年2月1日現在
()は前月比

総数	81,908人	(- 99)
男	40,263人	(- 44)
女	41,645人	(- 55)
世帯	35,125世帯	(- 27)

※外国人住民(43か国・地域/1,812人)を含みます。



Facebook



YouTube



Instagram



マチイロ



マイ広報紙



LINE

